

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 30 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H03238

研究課題名(和文) 近現代日本における「議会政治」の再検討：両院事務局所蔵の未公開資料群に基づいて

研究課題名(英文) Rethinking of "parliamentary politics" in modern Japan: on the basis of primary resources in the Secretariats of House of Representatives and Councillors

研究代表者

奈良岡 聡智 (Naraoka, Sochi)

京都大学・法学研究科・教授

研究者番号：90378505

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、衆参両院事務局などが所蔵する膨大な未公開資料群の本格的活用を通して、近現代日本の政治史を「議会政治」という観点から再検討した。具体的な成果は、以下の3点に要約される。「議会政治」の展開過程、議会事務局・議会官僚の役割を多面的に検証した。新出史料「河井弥八日記」を翻刻出版した。イギリスの制度を参照しつつ、議会関係資料の保存・公開体制のあり方について検討を行った。

研究成果の概要(英文)：This study examined modern Japanese history in terms of "parliamentary politics" by using a number of unpublished primary resources including those in the Secretariats of House of Representatives and Councillors. The achievements of this study are mainly as follows. 1)It examined the development of "parliamentary politics" and the roles of the Secretariats and secretaries of both houses in Diet. 2)It published the diaries of KAWAI Yahachi, which was found recently. 3)It examined how to preserve and open the primary resources related to the Japanese Diet, referring to the various archives in the UK.

研究分野：日本政治外交史

キーワード：議会政治 政党政治 衆議院事務局 参議院事務局 河井弥八

1. 研究開始当初の背景

(1) 近年の憲政史研究は、各種の内外資料の発掘・公開により、飛躍的進歩を遂げているが、国会両議院は情報公開法の適用対象外とされ、従来その所蔵資料への外部からのアクセスはほとんど不可能であった。そのため、それらを利用した体系立った歴史研究は行われず、議会法・議会先例の形成過程、それらを支えた議会議務局や議会官僚の役割に関しても不明な点が多かった。

(2) 研究代表者はかかる問題意識のもとで、大石眞教授(京都大学)を代表とする共同研究グループの一員として、科学研究費補助金に基づく研究プロジェクト「衆議院事務局の未公開資料群に基づく議会法制・議会先例と議院事務局機能の研究」(2009 - 11年度、基盤研究A、研究代表者:大石眞)、「未公開資料群に基づく二院制の比較憲法史的研究 - 議院運営実務と議会官僚の衡量過程」(2012 - 14年度、基盤研究B、研究代表者:大石眞)に参加してきた。その結果、国会両院事務局の所蔵する各種資料に基づき、国会法や議会先例の形成過程、わが国の両院関係の歴史的展開について、調査・研究を進めることができた。また、これまでほとんど未知であった議会議務局や議会官僚の役割に関して、資料研究、オーラル・ヒストリー、諸外国との比較照合といった観点から明らかにすることができた。本研究は、以上の研究成果を発展的に継承するために企画されたものである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、衆参両院事務局などが所蔵する膨大な未公開資料群の本格的活用を通して、近現代日本の政治史を「議会政治」という観点から再構築することである。より具体的には、法案提出のプロセス、議会先例の形成などに着目しつつ「議会政治」の展開過程を多面的に検証すると共に、「議会政治」の運営を支えた議会議務局・議会官僚の役割を解明することを目標とした。また、議会関係の基礎的史料が従来著しく不足してきたことに鑑み、新出「河井弥八日記」など議会官僚の私文書の分析、列国議会同盟文書館所蔵史料の調査・分析などを並行して進め、それらの史料の整理・公開を進めることで、政治史研究の史料水準を一挙に引き上げ、近現代史研究の新たな基盤を構築することを目指した。

3. 研究の方法

本研究の具体的な方法は、以下の通りであった。

(1) これまで卓越した業績を挙げてきた歴史学者、政治学者、憲法学者を糾合し、「議会政治」の展開過程について学際的な実証研究を行った。

(2) 衆参両院事務局の全面的な協力を得て、事務局所蔵の未公開資料群、新出「河井弥八日記」をはじめとする多様な私文書、オーラル・ヒストリー・メソッドを駆使することによって、従来に比べて格段に高い史料水準を実現した。

(3) 研究の過程で発掘・整理した重要史料を出版し、近現代史研究の学術的基盤を強化した。

(4) イギリスの制度を参照しつつ、議会関係資料の保存・公開体制のあり方について検討を行った。

4. 研究成果

(1) 衆議院事務局が所蔵する帝国議会期の衆議院の議事進行および列国議会同盟に係る資料群の調査・分析を進めた。併せて、同事務局国際部 0B へのインタビューを実施した。これらの成果に基づき、学術論文を発表すると共に、インタビュー記録等についても刊行の準備を進めている。参議院事務局所蔵資料については、現在事務局自身による資料の整理・目録作成作業が進行中であり、その進行状況を照会しつつ、今後の調査の可能性を探るとどまった。ただし、下記の通り私文書に基づく貴族院・参議院に関する調査・分析は飛躍的に進んだ。公私文書の相互参照による分析が、今後の課題として残されている。

(2) 「議会政治」の運営に携わった政治家や議会官僚などの私文書の調査・整理を進めた。このうち最重要史料と目される「河井弥八日記」に関しては、『河井弥八日記 戦後篇1(昭和20-22年)』『河井弥八日記 戦後篇2(昭和23-26年)』『河井弥八日記 戦後篇3(昭和27-29年)』(信山社)として刊行した。本日記には、戦後初期の貴族院や草創当時の参議院の状況、日本国憲法制定時の国会の状況、河井弥八参議院議長による参議院運営の実態などが詳細に記されている。今後、戦前から戦後にかけての「議会政治」再編について考える上で必須の資料として活用されることが見込まれる。

(3) イギリスの公文書館、大英図書館、保守党文書館などにおいて調査を行い、その成果に基づき、議会関連資料の保存・公開・利用に関する論文を発表した。

(4) 静岡県掛川市の河井弥八記念館において毎年講演会を開催し、研究成果の市民への還元を図るとともに、掛川市に伝わる史料や研究情報の収集に努めた。講演会の実施状況は、下記の通りである。

2016年3月

・清水実氏(静岡県近代史研究会幹事)「浜

松県地租改正と交換米問題、小笠地域の地価修正運動と河井重蔵」

・赤坂幸一（九州大学准教授）「河井弥八をめぐる憲法政治」

2017年3月

・森山優（静岡県立大学）「河井弥八と戦時体制」

・川崎政司（参議院法制局）「戦後立法の軌跡と国会」

・内藤一成（宮内庁書陵部）「河井弥八と水利事業」

2018年3月

・中園裕（青森県史編さんグループ近現代史部会主幹）「地域の政治家を探る－静岡県

の育成と発展を願った河井弥八」

・北原勤（河井重蔵・弥八研究会会員）「点描・河井重蔵」

（5）2015年7月、2016年7月、12月、2017年7月、12月に定例研究会を開催し、研究分担者・研究協力者の研究報告を行うと共に、関係分野で研究実績を挙げている研究者を講師として招聘し、講演をしていただいた。以上の成果に基づいて論文集を刊行すべく準備中である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計49件）

奈良岡聰智、河井弥八と戦後日本の出発、尚友倶楽部・中園裕・内藤一成・村井良太・奈良岡聰智・小宮京編『河井弥八日記 戦後篇1 [昭和二十年～昭和二十二年]』（信山社）、査読無、2015年、569-592頁

内藤一成、河井弥八の生涯と日記の来歴、尚友倶楽部・中園裕・内藤一成・村井良太・奈良岡聰智・小宮京編『河井弥八日記 戦後篇1 [昭和二十年～昭和二十二年]』（信山社）、査読無、2015年、551-568頁

奈良岡聰智、国立公文書館新館建設によせて、京大広報、712号、査読無、2015年、4463頁

奈良岡聰智、解説、猪木正道『日本の運命を変えた七つの決断』（文春学芸ライブラリー）、査読無、2015年、178-188頁

小林和幸、花房家所蔵『花房崎太郎関係文書』目録並びに解題、青山史学、34号、

査読無、2016年、27-49頁

若月剛史、（書評）村井良太著『政党内閣制の展開と崩壊』、史学雑誌、125編1号、査読無、2016年、69-75頁

小宮京・中澤俊輔、山川健次郎手帳日記（明治40～42年）翻刻と解題、青山史学、34号、査読無、2016年、95-125頁

赤坂幸一、【講演】クリスチャン・ヴァルトホフ「近年のドイツにおける議会法の展開 『加重された大連立 qualifizierte Grose Koalition』を踏まえて、法政研究、82巻4号、査読有、2016年、33-44頁

赤坂幸一、ハルツ 改革と自治権の保障、自治研究、92巻3号、査読有、2016年、143-151頁

赤坂幸一、最若年の最高裁オリジナル・メンバー 河村又介、法律時報、88巻3号、査読無、2016年、95-100頁

萩原淳、両大戦期の政治変動と平沼騏一郎の政治指導：官僚の政治行動と国家体制の変容 一九二四～一九三九年（2）、法学論叢、177巻2号、査読無、2015年、72-93頁

萩原淳、両大戦期の政治変動と平沼騏一郎の政治指導：官僚の政治行動と国家体制の変容 一九二四～一九三九年（3）、法学論叢、177巻5号、査読無、2015年、72-96頁

萩原淳、国本社とは何か：思想・平沼騏一郎・イメージ（ ）、政治経済史学、587号、査読有、2015年、1-29頁

萩原淳、国本社とは何か：思想・平沼騏一郎・イメージ（ ）、政治経済史学、588号、査読有、2015年、34-56頁

奈良岡聰智、イギリスの政党文書館の概要 - 保守党文書館を中心に - 、法学論叢、180巻5・6号、査読無、2017年、409-433頁

奈良岡聰智、「アーカイブズの国」イギリス、公研、54巻5号、査読無、2016年、6-7頁

奈良岡聰智、英国の国立公文書館・大英

- 図書館における私文書の閲覧体制：利用者の視点から、カレントアウェアネス、329号、査読無、2016年、14 - 18頁
- 若月剛史、昭和戦前期における技術官僚の土木工学振興論 - 宮本武之輔と「科学技術」、科学史研究、277号、査読無、2016年、13 - 21頁
- 若月剛史、「銚衡任用」をめぐる政治過程 - 応答性と専門性とのあいだ -、季刊行政管理研究、154号、査読無、2016年、31 - 39頁
- 若月剛史、近現代史の人物史料情報 村松岐夫、日本歴史、823号、査読無、2016年、90頁
- 21 小宮京、史料散歩 山川健次郎のもう一つの「遺稿」、日本歴史、817号、査読無、2016年、74 - 76頁
- 22 小宮京・中澤俊輔、山川健次郎「遺稿」の基礎的考察、青山史学、35号、査読無、2017年、1 - 16頁
- 23 赤坂幸一、竹崎博允 - 司法制度改革へのアンビヴァレンス、法律時報、89巻3号、査読無、2017年、92 - 97頁
- 24 赤坂幸一、ドイツにおける連邦政府内部の憲法適合性審査 - ベルリン調査報告、レファレンス、794号、査読無、2017年、67 - 86頁
- 25 奈良岡聡智、吉野作造の第一次世界大戦論、吉野作造研究、13号、査読無、2017年、22 - 29頁
- 26 奈良岡聡智、木内重四郎と岩崎家、三菱史料館論集、19号、査読有、2018年、95 - 119頁
- 27 奈良岡聡智、第一次世界大戦初期の日本における政党系新聞の外交論 大戦勃発から青島占領まで、法学論叢、182巻4・5・6号、査読無、2018年、198 - 287頁
- 28 奈良岡聡智・清水唯一朗、(対談)明治維新はどのように日本社会を変えたのか?、公研、56巻1号、査読無、2018年、34 - 51頁
- 29 小林和幸、貴族院の会派「研究会」の初期「会則」・「規則」について、青山史学、36号、査読無、2018年、35 - 46頁
- 30 萩原淳、昭和初期テロ事件の司法過程と軍部・社会：減刑嘆願運動の展開と司法権 1930～1936、年報政治学、2018年第号、査読有、2018年、掲載頁未定
- 31 大石眞、天皇の『公務』と退位をめぐる諸問題、憲法研究、創刊号、査読有、2017年、13 - 28頁
- 32 若月剛史、日本における官僚制の歴史的展開と公文書管理、月刊IM、2017年5月号、査読無、2017年、15 - 17頁
- 33 若月剛史、日本における官僚制の歴史過程から見る公文書管理、季報情報公開個人情報保護、65号、査読無、2017年、3 - 9頁
- 34 赤坂幸一、統治機構論探訪12 立法事実と立法資料：司法判断の理由付け、法学セミナー、759号、査読無、2018年、86-91頁
- 35 赤坂幸一、オーストリア連邦首相府憲法部の機能 ウィーン調査報告、レファレンス、805号、査読有、2018年、13-24頁
- 36 穴戸常寿・赤坂幸一・大河内美紀・林知更・西村裕一・山本龍彦、日本国憲法のアイデンティティ 第1回 座談会：憲法のアイデンティティを求めて、論究ジュリスト、2018年冬号、査読無、2018年、170 - 194頁
- 37 赤坂幸一、透明性の原理、法学セミナー、758号、査読無、2018年、53-60頁
- 38 赤坂幸一、国会審議の充実策 少数派権の観点から、The Page、2018.01.21、査読無、2018年、1-4頁
- 39 赤坂幸一、予防的規範統制、法学セミナー、757号、査読無、2018年、93-97頁
- 40 赤坂幸一、私化時代の法定立、法学セミナー、756号、査読無、2018年、62-67
- 41 赤坂幸一、ガバナンス、法学セミナー、755号、査読無、2017年、72-77頁

- 42 赤坂幸一、権力分立と正統性、法学セミナー、754号、査読無、2017年、76-83頁
- 43 赤坂幸一、議会留保、法学セミナー、753号、査読無、2017年、80-85頁
- 44 赤坂幸一、委任立法の『目的・内容・範囲』、法学セミナー、752号、査読無、2017年、74-83頁
- 45 赤坂幸一、新たな秩序形成プロセス、法学セミナー、751号、査読無、2017年、74-78頁
- 46 赤坂幸一、インフォーマルな憲法秩序、法学セミナー、750号、2017年、54-59頁
- 47 赤坂幸一、憲法留保、法学セミナー、749号、査読無、2017年、51-58頁
- 48 赤坂幸一、秩序形成プロセスと憲法、法学セミナー、748号、査読無、2017年、70-76頁
- 49 赤坂幸一、立法過程の合理化・透明化、法学教室、440号、査読無、2017年、36-43頁

〔学会発表〕(計8件)

内藤一成・奈良岡聰智・岡本正男・原義文、一次史料による砂防史の試み～「河井弥八日記」の発見と活用に向けて～、平成27年度砂防学会研究発表会、2015年05月20日、栃木県総合文化センター

Naraoka Sochi, Space and Politics: Politician's Private Villas and Parliamentary Chambers in the Political History of Japan, 人文学部(Faculty of Arts)における講演会(招待講演)、2016年03月15日、KU Leuven, Belgium

若月剛史、昭和戦前期における「技術」をめぐるガバナンス 土木系技術官僚を中心として、日本政治学会、2016年10月01日、立命館大学

若月剛史、日本の官僚制の歴史と文書管理、ARMA東京支部第113回定例会、2016年12月01日、中央大学

萩原淳、昭和初期の枢密院運用と二大政党：憲法解釈をめぐる先例と顧問官統制を中心に、日本政治学会、2016年10月02日、立命館大学

Naraoka Sochi, Japan and Historical

Issues in East Asia: Meiji 150th, WWI 100th, Public Lecture Event: Series "A World in Transformation": a vision from Japan at Casa Asia (招待講演)、2017年9月4日、Casa Asia in Barcelona, Spain

奈良岡聰智、明治維新とは何だったのか：150年後の視点から、ボン大学日本学科における講演(招待講演)、2017年11月21日、ボン大学、ドイツ

若月剛史、戦前日本の政治と官僚の専門性、第2回東アジア日本研究者協議会国際学術大会(国際学会)、2017年10月28日、南開大学、天津、中国

〔図書〕(計17件)

尚友倶楽部・中園裕・内藤一成・村井良太・奈良岡聰智・小宮京編、河井弥八日記 戦後篇1[昭和二十年～昭和二十二年]、信山社、査読無、2015年、600頁

尚友倶楽部・中園裕・内藤一成・村井良太・奈良岡聰智・小宮京編、河井弥八日記 戦後篇2[昭和二十三年～昭和二十六年]、信山社、査読無、2016年、656頁

尚友倶楽部・中園裕・内藤一成・村井良太・奈良岡聰智・小宮京編、河井弥八日記 戦後篇3[昭和二十七年～昭和二十六年]、信山社、査読無、2016年、686頁

大石眞、統治機構の憲法構想、法律文化社、査読無、2016年、356頁

小林和幸、国民主義の時代 - 明治日本を支えた人々 -、KADOKAWA、査読無、2017年、294頁

小林和幸(編著)、近現代日本 選択の瞬間、有志舎、査読無、2016年、294頁

待鳥聡史・駒村圭吾(編著)、「憲法改正」の比較政治学(このうち赤坂幸一執筆部分：V-2章「ドイツにおける憲法改正論議」263-288頁)、弘文堂、査読無、2016年、490頁

憲法理論研究会(編)、対話的憲法理論の展開(このうち赤坂幸一執筆部分：「『立憲主義』の日独比較 - 憲政史の観点から」21-38頁)、敬文堂、査読無、2016年、390頁

萩原淳、平沼騏一郎と近代日本：官僚の国家主義と太平洋戦争への道、京都大学学術出版会、査読無、2016年、466頁

筒井清忠(編)、明治史講義【人物編】(このうち奈良岡聰智担当部分：「岩崎弥太郎 - 三菱と日本海運業の自立」299 - 315頁)、筑摩書房、査読無、2018年、397頁

筒井清忠(編)、昭和史講義3 - リーダーを通して見る戦争への道(このうち奈良岡聰智担当部分:「加藤高明 - 二大政党政治の扉」17 - 34頁)、筑摩書房、査読無、2017年、302頁

小林和幸(編著)、明治史講義【テーマ篇】、筑摩書房、査読無、2018年、368頁

伊藤之雄・中西寛(編著)、日本政治史の中のリーダーたち:明治維新から敗戦後の秩序変容まで(このうち萩原淳担当部分:「平沼騏一郎と政権獲得構想:平沼内閣成立の模索と挫折 1924~1934」436 - 469頁)、京都大学学術出版会、査読無、2018年、492頁

大石眞・大山礼子(編著)、国会を考える、三省堂、査読無、2017年、326頁

穴戸常寿・林知更(編)、総点検 日本国憲法(このうち赤坂幸一担当部分:「立法権と国会」210 - 220頁)、岩波書店、査読無、2018年、320頁

牧原出(編)、法の番人として生きる 大森政輔 元内閣法制局長官回顧録(このうち赤坂幸一担当部分:「内閣法制局の矜持」311 - 318頁)、岩波書店、査読無、2018年、368頁

渡邊康行・木下智史・尾形健(編)、『憲法学からみた最高裁判所裁判官』(このうち赤坂幸一担当部分:「司法制度改革へのアンビヴァレンス 竹崎博允」92 - 97頁、「最若年の最高裁オリジナル・メンバー 河村又介」95 - 100頁)、日本評論社、査読無、2017年、386頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

取得状況(計 0件)

〔その他〕

ホームページ等 特になし

6. 研究組織

(1)研究代表者

奈良岡聰智(Naraoka Sochi)
京都大学・法学研究科・教授
研究者番号:97378505

(2)研究分担者

小林和幸(Kobayashi Kazuyuki)
青山学院大学・文学部・教授
研究者番号:00211904

笹部剛史(Sasabe Tsuyoshi)
(若月剛史(Wakatsuki Tsuyoshi))
関西大学・法学部・准教授
研究者番号:30625744

大石眞(Oishi Makoto)
京都大学・総合生存学館・教授
研究者番号:90091610

赤坂幸一(Akasaka Koichi)
九州大学・法学研究院・准教授
研究者番号:90362011

萩原淳(Hagihara Atsushi)
三重大学・人文学部・非常勤講師
研究者番号:50757565

小宮京(Komiya Hitoshi)
青山学院大学・文学部・准教授
研究者番号:80451764

(3)連携研究者

村井良太(Murai Ryota)
駒澤大学・法学部・教授
研究者番号:70365534

大山礼子(Oyama Reiko)
駒澤大学・法学部・教授
研究者番号:70275931

(4)研究協力者

葦名ふみ(Ashina Fumi)
国立国会図書館・政治史料課・司書
研究者番号:なし

内藤一成(Naito Kazunari)
宮内庁・書陵部・主任研究官
研究者番号:なし

伊東かおり(Ito Kaori)
九州大学・人文科学研究院・大学院生
研究者番号:なし

原口大輔(Haraguchi Daisuke)
九州大学・人文科学研究院・大学院生(日本学術振興会特別研究員)
研究者番号:00756497